

『計量史研究』投稿規定及び執筆要綱

計量史研究投稿規定 2021年7月24日改訂

1. 投稿資格 一般社団法人日本計量史学会員（以下、会員）は、同学会誌『計量史研究』（以下、会誌）に投稿することができる。会員でないものは、会員との連名の場合に限り投稿することができる。ただし、研究論文の場合、筆頭者は会員でなければならない。また編集部長は、必要と認めた場合、会員でない者に投稿を依頼することができる。

投稿する研究論文の内容は未発表のものであり、且つ科学的な実証を用意しているものでなければならない。その他記事も同様である。

2. 投稿原稿送付先 一般社団法人日本計量史学会事務局宛、「計量史研究投稿」として送付する。

3. 記事の種別

(1) 記事の種別は、研究論文、研究ノート、研究報告、総説、解説、資料、随想、消息、書評、紹介（文献、他学会、オーラルヒストリー、歴史探訪、他）、文献目録の11種類とする。

(2) 投稿者は投稿の際種別を指定することができる。会誌に掲載するにあたり、編集部長は投稿者及び校閲者の意向を尊重しつつ、種別を決定する。

4. 投稿原稿の校閲

(1) 研究論文、総説等の校閲は、一般社団法人日本計量史学会会長が委嘱した校閲委員2名以上で行う。その他の解説、資料等に関しては、編集部長の判断により担当者を定めることができる。

(2) 校閲委員に送付された原稿の校閲は、速やかに実施するものとし、校閲票に所定の事項を記し必要な意見を添えて、編集部長に返送する。

(3) 校閲委員に送られてきた原稿が、専門以外の内容と認められる場合は、直ちに「他の校閲者へ」と記し、編集事務局へ返送する。

5. 投稿原稿の採否

(1) 投稿原稿の採否は、校閲委員の所見に基づき、編集部長が決める。

(2) 校閲者の意見により、執筆者は原稿に対し必要な改変等を行うことができる。その手順を経た後に、校閲委員の意見を考慮し、編集部長が採否を決定する。

(3) 論文校閲委員の意見が、可否に分かれた場合、更に別の校閲委員の意見を問い、編集部長が校閲委員の意見を基に多数決を勘案して、採否を決定する。

6. 校正 執筆者による校正は1回とする。メールによることも認める。

7. 掲載された原稿等の処置 原則として掲載された記事の原稿は返却しない。

8. 掲載号の贈呈と抜刷の処理 原則として、執筆者には本誌当該号を2部贈呈する。なお、連名者がいる場合には、主たる執筆者（筆頭者）には、2部、連名者には1部贈呈する。抜刷を希望する場合、原稿送付時又は執筆者校正時等に50部単位で申し込む。抜刷の表紙ぐるみを希望する場合は、申し込みの際に申し出る。表紙なしの場合も同様である。抜刷料（表紙なし）及び表紙ぐるみの抜刷料金は、編集部にて決める。

9. 著作権 本誌に掲載された記事の著作権は本会に帰属する。ただし本会の許可があれば他へ転載することができる。

付則1 2001年12月15日一部改訂

付則2 2006年8月6日一部改訂

付則3 2012年8月1日一部改訂

付則4 2021年7月24日一部改訂（記事の種別、掲載号の贈呈と抜刷の処理等）、2021年8月1日実施

計量史研究執筆要綱 2021年7月24日改訂

1. 分量 記事1件の分量は、原則として、本文10.5pt. (ポイント)、1頁1680字相当、出来上がり10頁(原稿用紙400字詰め40枚)程度とする。なお、記事の性質により、長短を認める。

2. 原稿の様式 投稿原稿は、原則としてA4(210mm×297mm)横書き、ワード(Microsoft word)で作成したものを提出する。投稿に際しては、電子ファイルのメモリー(USBメモリーが望ましい。メールによる送信も認める。)と、印字した原稿3部を提出する。

なお、校閲が終了し、掲載が決定した時に、編集部の指示により、必要に応じ、校正済み原稿、電子ファイル(USB等、USBメモリーが望ましい。メールによる送信も認める)の再提出を行う。

事情がある場合、手書き原稿(400字詰め原稿用紙)による投稿を認めるが、校閲終了後に行われる版組費用を請求する場合がある。

3. 投稿原稿の構成

(1) 研究論文、研究ノート及び研究報告、総説の、構成は、

- ①『計量史研究』投稿表紙(次項4.参照)
- ②表題、著者名及びそれらの英文
- ③英文要旨及びキーワード
- ④本文(参考文献、注記、及び必要な後注等を含む)
- ⑤表及び図(写真を含む)

とする。

(2) 解説、資料、随想、消息、書評、紹介(文献、他学会、オーラルヒストリー、歴史探訪、他)は、

- ①『計量史研究』投稿表紙(次項4.参照)
- ②表題、著者名と、必要に応じてそれらの英文
- ③必要に応じキーワード明朝
- ④本文、(参考文献、注記、及び必要な後注等を含む)
- ⑤表及び図(写真を含む)

とする。

4. 『計量史研究』投稿表紙(本誌各号に添付し

てあるので、投稿時にコピーして使用する)

記入事項は、下記の通りである。

- ①記事の種別: 研究論文、研究ノート、研究報告、総説、解説、資料、随想、消息、書評、紹介(文献、他学会、オーラルヒストリー、歴史探訪、他)、文献目録の11種類
- ②執筆者及び所属(和文及びローマ字(欧文))
- ③表題(和文及び欧文)
- ④本文(参考文献、注記、及び必要な後注等を含む)及び図表の枚数
- ⑤連絡先、住所、電話、E-mail
- ⑥使用ソフト ワード(Microsoft word)に関わる情報
- ⑦連絡事項等
- ⑧必要とする抜刷部数(有料、50部単位、表紙(表紙くるみ)の有無)
- ⑨その他必要事項

5. 表題と氏名、連絡先 表題、氏名、和文、英文とも、明朝(MS明朝以下同じ)14pt.強調(太字)。副題を添える場合、副題を明朝12pt.強調(太字)にすることも可。下段、連絡先は本文と同じ明朝10.5pt.。

6. 英文要旨及びキーワード

(1) 研究論文、研究ノート、研究報告、総説

本文の始めに英文要旨(Abstract)を、9pt.、ローマン活字(century)で、200語程度まで。1段組、行変えなし。

キーワード(Keywords)は、英文要旨に準じ、英単語による。必要に応じ、日本単語等を添える。9pt.、ローマン活字(century)で、10語又は2行程度。1段組、行変えなし。

(2) 上記以外の記事

英文要旨及びキーワードを記す場合には、上記(1)に準じる。

7. 本文の形式 本文は、原則として10.5pt.、明朝体(MS明朝)とする。1頁は、「22字×40行」2段組、段間7mm、左右余白それぞれ20mm、上余白22mm、下余白34mm(版面幅171mm、高さ

241 mm) とした電子ファイルとする。

8. 文体、用事、字体、句読点 原則として、口語体、当用漢字、現代かな使い、算用数字（ただし、ひとつ、ふたつ等は、国語審議会が勧める一つ、二つ）で記し、字体は明朝体（MS 明朝）、句点はコンマ「、」、終点はピリオド「。」とする。

9. 章等の見出し 章の見出しは 2 行取、章以下の見出しとともに、いずれも本文明朝体 12pt. 太字。

10. 単行書・雑誌の題名 本文中の書籍、雑誌の題名は、和漢書ならば『・・・』と表し、洋書であれば下記 18.参考文献、例 4 に準じる（斜体も可）。論文の題・章節の題・文書の題は、和漢書の場合は、「・・・」で記し、洋書の場合は“・・・”で表記する。

11. 年号 西暦表記は、半角数字表記。紀年表示については、例えば令和 3 (2021) 年又は 2021 (令和 3) 年と西暦を併記する。なお、元年は、1 年と算用数字で記す。

12. 固有名詞 原則として漢字圏以外の外国人、地名等はカタカナ表記をし、(・・・) に元のつづり又はローマ字転写を添える。

13. 引用文 3 行以内の引用は、欧文の場合は“・・・”、斜体も可、漢文、和文の場合は「・・・」で記し、それ以上の場合は、改行し、左端を 1 字あけてから記す。

14. 単位 国際単位系を用いる場合、数字と単位の間半角をあける。

15. 謝辞 結論の後に、当該論文を纏めるにあたり支援、協力を受けた方々等への謝辞を設けることができる。

16. 追記又は追付 必要に応じて、本文と同じ形式で記す。

17. 脚注 必要に応じて、当該箇所注 (1)、注 (2)・・・を付け、9pt. で記す（和漢字 MS 明朝、英数字 century）。

18. 注及び引用（参考）文献 本文当該箇所に通し番号 1)、2)・・・を上付けする。

(1) 引用文献、書籍の場合の記入順

著者、編集、訳者：書名、発行所、出版地（必要に応じて）、(西暦年)、初頁-終頁

例 1 和漢文の書籍

1) 小泉袈裟勝：歴史の中の単位、総合科学出版、東京、(1874)、320-329 頁

例 2 欧文書籍の例

2) Kisch, B. : Scales and Weight – A Historical Outline, Yale UP, New Haven and London, (1965), pp.155-162

(2) 引用文献、論文や記事の場合の記入順

著者：表題、誌名、巻-号、(西暦年、必要に応じて月日)、初頁-終頁

例 1 和漢文の論文

1) 馬場章：後藤四郎兵衛家の分銅家業、計量史研究、19-1 (通 20)、(1997)、25-42 頁

例 2 和漢文の記事

2) 小倉光男：江戸の枡、日本計量新報、2415 号、(2001-09-30)、5 頁

例 3 欧文論文の例

3) Gulbekian, E. : The Origin and the Value of the Stadion Unit used by Eratosthenes in the Third Century B.C., Archive for History of Exact Science, 37-4, (1987), pp.359-363

19. 表 原則として、9pt.

20. 図その他 図版、写真は、製版(スキャン)したものを原文に挿入する。

付則 1. 1988 年 8 月 1 日 ワープロ原稿執筆要綱廃止

付則 2. 1998 年 12 月 15 日 A4 版で刊行

付則 3. 2001 年 12 月 15 日 頁 2 段組

付則 4. 2006 年 8 月 5 日 原稿様式、キーワードの制定

付則 5. 2012 年 8 月 1 日 一部改訂

付則 6. 2021 年 7 月 24 日 一部改正(2021 年、8 月 1 日実施) 投稿論文、その他記事のワード (Microsoft word) での提出を義務化とメールの普及に対応するため。

『計量史研究』投稿原稿表紙

原稿記事 (○で囲む)	研究論文 研究ノート 研究報告 総説 解説 資料 随想 消息 書評 紹介 文献目録	
著者名	和文	
	英文	
表題	和文	
	英文	
枚数	本文	枚 (本文には、脚注、注及び参考文献、図、写真、表を含む)
	図 写真 表	図 枚 写真 枚 表 枚
パソコン・ワード Microsoft word 等に関する情報	パソコン・ワード	パソコンの種類 () ワードの種類 ()版
	提出ファイル	USB メモリーの種類 () FD の種類 () 事務局メールその他 ()
抜刷申込 (部数)	注意 (有料、50 部単位)	()部 表紙 あり なし (どちらかを消す)
連絡先	住所	
	電話・FAX	
	E-mail	
事務連絡等		
No.	原稿到着確認 (メール等) 年 月 日	確認連絡 (メール等) 年 月 日